第９次南極観測隊にインタビュー

大久保（おおくぼ） 嘉明（よしあき）さん

プロフィール

1937 年鹿児島県生まれ。
鹿児島大学医学部卒。
観測隊参加時、東京医科歯科大学第一内科所属。医学研究担当。

第９次隊南極観測隊に参加したきっかけを教えてください。また、南極ではどんなお仕事をしたのですか？

きっかけは、当初東京医科歯科大学第一内科の上司が参加予定だったが、輸血部設立のため参加出来なくなり、ピンチヒッターとして急遽交替参加。外科医が極点旅行に随行（ずいこう）するため、その間昭和基地を預かる医師として、救急病院勤務経験があって外科も出来る内科医というのが選考理由だった。

南極昭和基地では、

1. 「寒冷順化（かんれいじゅんか）の生理学的研究」で基礎代謝量測定（きそたいしゃりょうそくてい）や血液検査、皮下脂肪厚（ひかしぼうあつ）測定、体重・血圧検査など。
2. 極点旅行隊員の出発前と帰還後の生理学的検査。
3. 隊員の傷病診療や、庶務係（しょむがかり）として公用電報管理や日誌記帳など。
4. 日本南極観測隊初の南極海潜水調査。生物担当・福井義夫隊員のパートナーとして、昭和 43 年（1968 年）２月２日、ラングホブデ沿海で素潜りとスキューバ（アクアラング）ダイビング、計 49 分間。

【基地作業の合間に】

極点旅行について、印象に残っていることはなんですか？

●雪氷担当の遠藤八十一隊員負傷

極点旅行へ出発１週間目にアイスオーガーに左腕を巻き込まれ、基地送還されてきた。X 線検査の結果、上腕骨・尺骨（しゃっこつ）・橈骨（とうこつ）・第１中手骨骨折、前腕外傷で全治６ヶ月と診断。付き添ってきた旅行隊の小林昭男ドクターの指示で２直角良性肢位でギプス固定。帰国までに全治した。

●軟雪で苦労した旅行隊、昭和 43 年（1968 年）12 月 19 日南極点到達。

現在と違って電離層任せだった通信事情、困難さが予想された昭和基地通信室だったが、運良く銚子無線局とコンタクト成功。文部省に極点到達を報告できた。しかし丁度同じ時期に、米 NASA のアポロ 10 号が初めて月周回飛行に成功したニュースが世界を駆け巡っていたために、日本ではこの南極点到達ニュースは大きな話題にはならなかったらしい。